

稿 KŌCHŪ 虫

青森県における

オオヒョウタンゴミムシの採集記録

阿部 東

オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* OLIVIER の本州における分布北限は、従来茨城県下とされていたが、筆者は本州の北端に近い青森県で本種を採集しているので、新たな北限記録として報告しておきたい。

1 ex., 青森県西津軽郡深浦町, 19. Ⅷ. 1954

海岸の砂浜に落ちていた穴だらけのゴム長靴の砂の中から採集したもので、足を縮めて死んだふりを装っていたが、手の中で転すとゆっくり足を動かした。採集地は秋田県に近く日本海につき出した部分で、本県では最も暖地性の生物が棲息する地域である。

(〒037 五所川原市松島町 2-91-3)

マメクワガタ沖縄本島の記録

小笠原 隆

マメクワガタ *Figulus punctatus* WATERHOUSE は、従来、本州(紀伊半島)・四国・九州・対馬・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島・屋久島・トカラ中之島・奄美大島および台湾から記録されていたが、筆者は1976年5月に沖縄本島にて採集しているので、同島初記録として報告しておく。

1 ex., 沖縄本島与那覇岳, 21. Ⅴ. 1976

伐採枝の叩き網により得られた。

末尾ながら、本種を同定して下さり、分布域をご教示下さった市川敏之氏に感謝の意を表したい。

(〒156 世田谷区上北沢 5-8-2 第2荘)

コクワガタの土中越冬記録について

田尾 美野留

秋～冬にかけて羽化したクワガタムシが、材中で成虫越冬するため、各種のクワガタムシ新成虫が冬期、材中の蛹室内で見つかることはよく知られている。筆者は冬期採集において、土中で越冬していたコクワガタ *Macrodercas rectus* MOTSCHULSKY を得た。

クワガタムシの土中越冬例は聞かないので、報告しておきたい。

1 ♂, 茨城県那珂湊市下組, 31. ⅩⅢ. 1975

1 ♀, 茨城県取手市戸田井〜城根, 22. Ⅱ. 1976

♂の個体については崖の上部より落下してきたため、越冬状態については不明であるが、♀の個体は崖の赤土をはがしたところ、割れ目に沿って斜め下方を向き、はさみこまれるような形で越冬していた。2 個体共夏に活動したものらしく、汚損した個体であった。

末筆ながら、発表をお勧めいただいた市川敏之氏に感謝したい。

(〒230 横浜市鶴見区平安町1-38-10)

カラカネチビナカボソタマムシの北限記録

大桃 定洋

カラカネチビナカボソタマムシ *Nalanda ohbayashi* Y. KUROSAWA を福島県の東北端、山形・宮城両県境近くで採集した。恐らく北限の記録と思われる。

1 ex., 福島県福島市茂庭,

4. Ⅶ. 1976

土場周辺のピーティングで得たもので、付近には食樹で



あるオニグルミが多かった。この他にも同県南会津湯の花にて 1 ex. (21, Ⅶ, 1974) の本種を採集している。

最後に、同定と種々のご教示をいただいた田添京二先生に深謝いたします。

(〒167 杉並区西荻窪北 3-22-15 西荻コーポラス 202)

福島県いわき市のタマムシ 5 種

大桃 定洋

筆者は1976年、福島県いわき市において、興味深いと思われる次の5種のタマムシを採集したので報告する。

1. クロホシタマムシ

Ovalisia virgata MOTSCHULSKY

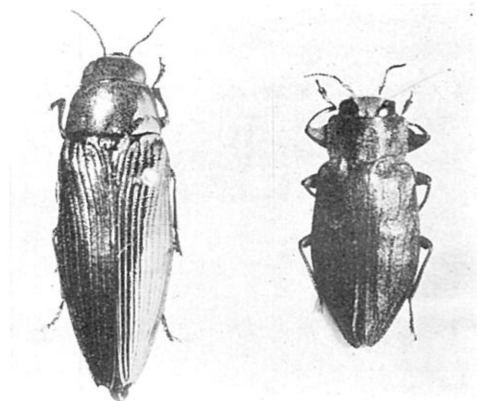
2 exs., いわき市小川郷, 20. Ⅶ. 1976

コナラの材に飛来した。同地は海拔50mで、海岸から数 km 離れた平野部の最奥とはいうものの、従来山間部で採集されている本種がこのような海岸に近い所で得られたことは興味深い。

2. アオタマムシ *Eurythyrea tenuistriata* LEWIS

1 ♀, いわき市江田, 4. Ⅷ. 1976

土場のアカマツ材に飛来した。従来の北限の記録は日光付近とのこと。(写真左) 同地は、イワキアオタマムシ *E. obenbergeri* の記録された福島県檜葉町木戸から山一つ南へ越した所で、イワキアオタマとの関連において、今後詳しい調査が必要であろう。



3. ツシマムツボシタマムシ

Chrysobothris samurai OBENBERGER

1 ex., いわき市小川郷, 22. V. 1976

従来、樺太・満州・朝鮮、および日本からは、対馬・九州本土(大分県)・中国地方(広島・岡山県)から記録されていた種であったが、今回、一気に福島県まで分布が延びたことは驚きである。

広葉樹(シイ類)の枯枝のビーティングで得た。この個体は f. *samurai* とされる四紋型のものである。(写真右)

4. ムネアカチビナカボソタマムシ

Nalanda rutilicollis OBENBERGER

多数, いわき市江田, 4. VIII. 1976

従来、東京周辺以南で得られていたが、その食樹の関係から福島県の太平洋側にも分布する可能性が強い、と注意していたところ、同地のアカメガシワの葉上から多数得ることができた。北限の記録と思われる。

5. オオウグイスナガタマムシ

Agrilus asiaticus igai Y. KUROSAWA

1 ex., いわき市江田, 4. VIII. 1976

従来、関西地方から知られていた種で、最近では東京都下でも得られた(藤田, 1976)。土場に飛来した多数のウグイスナガタマムシ *A. tempestivus* に混っていた1頭を得た。北限の記録と思われる。

なお、筆者は1976年に同地で、ホソツヤヒゲナガコバネ・ヨコヤマトラ・クリストフコトラ・アメイロなどのカミキリやオオシマオビハナノミを採集している。これらの記録からみると、今後詳しい調査がなされれば、より興味ある種が記録される可能性が非常に大きいと考えられる。従来、阿武隈山地での採集は、その人為的開発の度合から、成果の少ないものと考えられていたが、上記の場所のような、阿武隈山地の東斜面の沢添いの場所(多くの場合、水源保安林として保護されている)を選べばかなり期待されるのではないかと考えている。

最後に、タマムシを同定して下さった黒沢良彦博士、また、カミキリ・タマムシの同定と種々の御教示をいただいた田添京二先生に深謝いたします。

(〒167 杉並区西荻窪北3-22-15 西窪コーポラス202)

先島諸島のナカボソタマムシ属覚え書

藤田 宏

先島諸島からは従来、ミドリナカボソタマムシ・タイワンナカボソタマムシの2種の *Coraebus* が記録されていたが、筆者はこれらとは別な2種の *Coraebus* を所持しているので報告しておく。また、タイワンナカボソタマムシを竹富島より初記録として報告する。

1. *Coraebus* sp.¹⁾

1 ex., 石垣島オモト岳, 31. V. 1975, 深町宗通採集体長4.5mm。全身緑がかった銅色の *Coraebus* で、日本産本属中最小の種と思われる。他の日本産 *Coraebus* とは著しく外見が異り、亜属の異なる種と考えられる。

上記の他にも石垣島でいくつかの個体を得られている。

2. *Coraebus* sp.²⁾

1 ex., 石垣島オモト岳, 16. V. 1975, 深町宗通採集体長6mm。細い筒型の *Coraebus* で、本種も今まで本邦から知られていた *Coraebus* とはまったく異なる種である。全体に鈍い黄銅色で、上翅後半は黒色。翅端近くには2本の白い波状紋をもつ。この *Coraebus* は現在のところ、他に採集例がないようである。

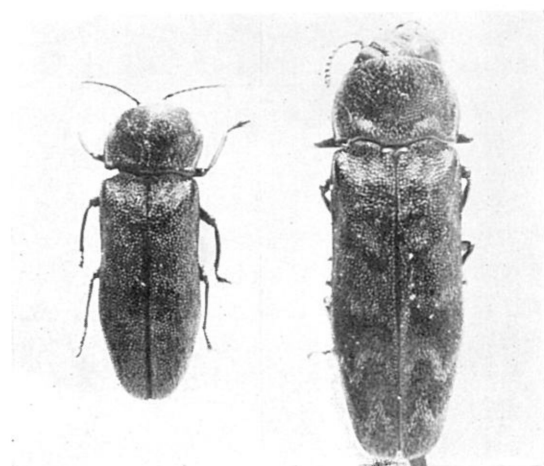
3. タイワンナカボソタマムシ

Coraebus formosanus MIWA et CHŪJŌ

1 ♀, 石垣島バンナ岳, 28. V. 1974, 清野隆採集

1 ♂, 石垣島オモト岳, 26. V. 1975, 深町宗通採集

1 ♂, 竹富島, 28. III. 1976, 川田一之採集



左: *Coraebus* sp.¹⁾ 右: *Coraebus* sp.²⁾